

樞密顧問官 林 頼三郎
 樞密顧問官 二上 兵治
 樞密顧問官 三土 忠造
(三土 忠造 東京府出身)

樞密院議長原 嘉道殿

秘

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約締結
及關係公文交換ノ件外一件審査報告

昭和十五年十一月二十二日

委員長 鈴木副議長 五
 委員 河合顧問官 九
 石井顧問官 六

有馬顧問官 五
窪田顧問官 七

石塚顧問官 六
清水顧問官 七

南 顧問官 五
奈良顧問官 五

荒木顧問官 五
松井顧問官 六

菅原顧問官 五
松浦顧問官 五

國政府ハ政戰兩略ヲ盡シテ事變ノ目的達成ニ邁進シ昭和十三年一月十一日ノ御前會議決定ノ支那事變處理ニ關スル根本方針及同年十一月三十日ノ御前會議決定ノ日支新關係調整方針ニ基キ重慶政權ニ對シ其ノ反省ヲ促スト共ニ他方帝國ノ眞ノ目的ト使命トヲ理解シ帝國ト提携シテ新支那建設ニ邁進シ得ベキ新ナル政治勢力ノ育成ヲ企圖シ且之ガ實行ヲ爲シ來レリ然ルニ現下内外諸般ノ情勢ヲ考察スルニ曩ニ南京ニ樹立セラレタル新政府ハ爾來漸次

支二

其ノ政治力ヲ増大シ來レルヲ以テ此ノ際同政府トノ間ニ新關係ノ再建ニ關スル基準ヲ定メテ之ヲ中外ニ闡明シ同政府ヲ中華民國ヲ代表スル政府トシテ正式ニ承認シ速ニ其ノ政治力ノ培養強化ヲ圖リ由テ以テ帝國ノ事變遂行ニ協力セシメ重慶政權ノ崩壞全面和平ノ招來ヲ期スルノ方途ニ出ヅルノ必要ヲ認ムルニ到レリ茲ニ於テカ帝國政府ハ右新政府トノ間ニ日華間基本關係ニ關スル條約ヲ締結セントシ曩ニ特命全權大使ヲ派遣シ之ガ折衝ヲ重ホシメ

タルニ今般漸ク妥結ニ達シ茲ニ其ノ成案ヲ得
ルニ到レリ又中華民國國民政府ニ依ル滿洲國
ノ承認及滿洲國ニ依ル中華民國國民政府ノ承
認ハ右ノ條約締結ト同時ニ之ヲ行フコトヲ要
スル重要案件ナルガ之ガ承認ハ日滿華三國間
ノ一般提携ヲ約スル共同宣言ニ依リ之ヲ爲サ
ントシ之ガ交渉ハ前記條約ノ折衝ト併行シテ
三國政府間ニ行ハレ其ノ結果遂ニ意見ノ一致
ヲ見ルニ到レリ仍テ政府ニ於テハ本案ノ條約
及其ノ附屬文書並ニ共同宣言ヲ一括シテ茲ニ

支三

本院ノ詢議ニ付セラレシコトヲ奏請シタルモ
ノナリ

今本案各件ノ要旨ヲ摘記スレバ次ノ如シ

第一 日本國中華民國間基本關係ニ關スル條

約締結及關係公文交換ノ件

本案ノ取極ハ條約ノ外之ニ添屬セル附屬議
定書同議定書ニ關スル日華兩國全權委員間
了解事項秘密協約秘密協定及秘密交換公文
二件ヲ伴フ以下順次之ヲ説明スベシ

(甲)條約

本條約ハ日華兩國間ノ關係ヲ規律スベキ基
本的條規タルモノニシテ其ノ前文ニ於テ兩
國政府ハ相互ニ其ノ本然ノ特質ヲ尊重シ東
亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スルノ共
同理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ提携シ以テ
東亞ニ於ケル恒久的平和ヲ確立シ之ヲ核心
トシテ世界全般ノ平和ニ貢獻セシコトヲ希
望スル旨ヲ掲ゲ次デ其ノ本文ニ於テ(一)兩國
政府ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ
政治經濟文化等各般ニ亘リ互助敦睦ノ手段

ヲ講ズベク又政治外交教育等諸般ニ亘リ相
互ニ兩國間ノ好誼ヲ破壞スルガ如キ措置及
原因ヲ撤廢シ且將來ニ亘リ之ヲ禁絶スルコ
トヲ約シ(條一)(二)兩國政府ハ文化ノ融合創造
及發展ニ付緊密ニ協カスベク(條二)(三)兩國政
府ハ一切ノ共產主義的破壞工作ニ對シ共同
シテ防衛ニ當ルコトトシ之ガ爲メノ必要ナ
ル措置ニ付緊密ニ協カシ又日本國ハ防共ノ
爲メ所要期間中軍隊ヲ蒙疆及華北ノ一定地
域ニ駐屯セシムルコトトシ(條三)(四)兩國政府

ハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ガ撤去ヲ完了スルニ至ル迄共通ノ治安維持ニ付緊密ニ協力スルコトヲ約シ該派遣軍隊ノ駐屯地域等ニ關シテハ兩國間ニ協議決定スルコトトシ(條四)五)中華民國政府ハ日本國ガ從前ノ慣例ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保スル爲メ所要期間中其ノ艦船部隊ヲ中華民國領域内ノ特定地域ニ駐留セシメ得ルコトヲ承認スベク(條五)六)兩國政府ハ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フモノトシ華北蒙疆

及其ノ他ノ地域ニ於ケル特定資源開發ニ關スル中華民國ノ夫々執ルベキ措置ヲ定メ更ニ兩國政府ハ一般通商ヲ振興シ兩國間ノ物資供給ヲ便宜且合理的ナラシムル爲メ必要ナル措置ヲ講ズルコトトシ尚中華民國ニ於ケル産業金融等ノ復興發達ニ付日本國政府ノ援助乃至協カヲ約シ(條六)七)本條約ニ基ク日華新關係ノ發展ニ照應シ日本國政府ハ中華民國ニ於ケル治外法權ヲ撤廢シ租界ヲ還付スベク、中華民國政府ハ自國領域ヲ日本國

臣民ノ居住營業ノ爲メ開放スルモノトシ(七)條
(八)本條約ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル具
體的事項ニ關シテ更ニ約定ヲ締結スルコト
トシ(八)條(九)本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラ
ルベキ旨(九)條ヲ定メタリ

(乙)議定書

本議定書ハ主トシテ條約實施ニ伴フ過渡的
事項ヲ定メタルモノニシテ(一)中華民國政府
ハ日本國ガ中華民國領域内ニ於テ現ニ遂行
シツツアル戰爭行爲繼續期間中戰爭行爲遂

行ニ伴フ特殊事態ノ存在スルコト及日本國
ガ戰爭行爲ノ目的達成上必要ナル措置ヲ執
ルコトヲ諒解シ相應ノ必要措置ヲ講ズルモ
ノトシ尚右特殊事態ハ戰爭行爲繼續中ト雖
支障ナキ限リ適宜條約及附屬文書ノ趣旨ニ
準據シテ調整セラレベキモノトシ(二)從
前中華民國臨時政府、中華民國維新政府等ノ
辨ジタル事項ハ其ノ儘中華民國政府ニ繼承
セラレタルガ右事項中調整ヲ要スベキモノ
ハ漸次條約及附屬文書ノ趣旨ニ準據シテ速

ニ調整セラルベク(條三)三兩國間ノ全般的平和克復シ戦争状態終了シタルトキハ日本國軍隊ハ本條約及兩國間ノ現行約定ニ基キ駐屯スルモノ以外ハ撤去ヲ開始シ治安確立ト共ニ二年以内ニ之ヲ完了スベク中華民國政府ハ本期間ニ於テ治安ノ確立ヲ保障スルモノトシ(條三)四中華民國政府ハ同國ニ於テ事變ニ因リ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償スベク又日本國政府ハ事變ノ爲メ生ジタル中華民國難民ノ救濟ニ付同國政府

ニ協力スベク(條四)五本議定書ハ條約ト同時ニ實施セラルベキ旨(條五)ヲ定メタリ
(丙)議定書ニ關スル了解事項
本了解事項ハ議定書第一條及第二條ノ規定ニ關聯シ其ノ解釋ヲ明確ナラシムル爲メ兩國全權委員間ニ成立セルモノニシテ(一)中華民國ニ於ケル各種徵稅機關ニシテ目下特異ナル状態ニ在ルモノハ速ニ之ガ調整ヲ計ルベク(二)目下日本軍ニ於テ管理中ノ公私營ノ工場鑛山及商店ハ特殊ノ事情ニ在ルモノヲ

除キ速ニ之ヲ中華民國側ニ移管スル爲メ必
要ナル措置ヲ講ズルモノトシ(三)日華合辦事
業ニシテ固有資産ノ評價、出資比率等ニ付修
正ヲ要スルモノアルニ於テハ之ガ是正ノ措
置ヲ講ズベク(四)中華民國政府ハ日華經濟提
携ノ原則ト牴觸セザル限リ對外貿易ニ關シ
必要ナル統制ハ自主的ニ之ヲ行フベク尤モ
事變繼續中ハ右ノ統制ニ付日本國側ト協議
スルヲ要スルコトトシ(五)中華民國ニ於ケル
交通及通信ニ關スル事項ニシテ調整ヲ要ス

ルモノハ事態ノ許ス限リ速ニ之ガ調整ヲ計
ルモノトスル旨ヲ定メタリ

(丁) 秘密協約

本協約ハ條約ヲ補充スルモノニシテ(一)條約
第五條ノ規定ニ基キテ日本國艦船部隊ノ揚
子江沿岸華南沿岸島嶼等ノ特定地點ニ於ケ
ル駐留ノ事ヲ定メ日本國艦船ノ中華民國領
域内港灣水域ニ自由ニ出入碇泊シ得ル旨ヲ
約シ又兩國ハ華南沿岸特定島嶼及之ニ關聯
スル地點ニ於テ緊密ナル軍事上ノ協力ヲ行

フコトトシ(條二)厦門及海南島並ニ其ノ附
近ノ諸島嶼ニ於ケル特定資源ノ開發生産及
利用ニ付必要ナル事項ヲ定メ(條三)本協約
ノ公表時期ニ付約シ(條三)四本協約ハ條約ト
同時ニ實施セラルベキ旨(條四)ヲ定メタリ
(戊)秘密協定

本協定ハ前項ノ協約ニ準ズル取極ニシテ(一)
兩國政府ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行
ヒ之ニ反スルガ如キ一切ノ措置ヲ第三國ト
ノ關係ニ於テ執ラザルコトヲ約シ(條一)(二)中

華民國政府ハ日本國軍隊ノ駐屯ニ必要ナル
諸般ノ便宜ヲ供與シ且日本國軍隊ノ駐屯地
域及之ニ關聯スル地域ニ存在スル鐵道航空
通信等ニ付軍事上必要ナル要求ニ應ズルコ
トトシ但ダ平時ニ於ケル中華民國ノ行政權
及管理權ハ尊重セラルベキ旨ヲ定メ(條三)(三)
兩國政府ハ必要ノ場合協議ノ上本協定ノ全
部又ハ一部ヲ公表スベク(條三)(四)本協定ハ條
約ト同時ニ實施セラルベキ旨(條四)ヲ定メタ
リ

(己) 秘密交換公文

本交換公文ハ甲乙二種ニ分レ(甲)ハ(イ)蒙疆ノ自治權(ロ)全般的平和克復後ニ於ケル華北政務委員會ノ權限構成(ハ)新上海ノ建設(ニ)華南沿岸特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ關スル措置並ニ(ホ)日本人顧問及職員ノ招聘採用ニ關スル必要ナル事項ヲ確約スルモノ(乙)ハ日本國ガ中華民國領域内ニ於テ戰爭行爲ヲ繼續スル期間中中華民國政府ハ右ノ戰爭行爲ノ目的完遂ニ付積極的ニ協カスベキ旨ヲ誓

約スルモノナリ

第二 日滿華共同宣言署名ノ件

本案ハ中華民國國民政府ニ依ル滿洲國ノ承認及滿洲國ニ依ル中華民國國民政府ノ承認ヲ主眼トスルモノニシテ日滿華ノ三國ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シ互惠ヲ基調トスル一般提携就中善隣友好共同防共經濟提携ノ實ヲ擧グベク之ガ爲メ各般ニ亘リ必要ナル手段ヲ講ジ及本宣言ノ趣旨ニ基キ速ニ約定ヲ締結スベキ旨ヲ宣言セントスルモノ

ナリ

按ズルニ汪精衛ヲ首班トスル中華民國國民政府ガ帝國ノ支那事變處理方針ニ呼應シテ成立シ帝國ト提携シテ東亞ノ新秩序建設ニ邁進セシコトヲ盟約スルニ及ビ帝國ガ之ト國交ノ再開ヲ計リ帝國不動ノ國是ヲ實現セシガ爲メ同政府ヲ承認スベキコトハ現下ノ事態ニ於テ當然ノ事理ニ屬ス而シテ本案ノ取極及共同宣言ハ同政府ヲ以テ中華民國ヲ代表スル政府トシテ正式ニ承認シ日華間ノ基本關係ヲ規律シ相

三二

携ヘテ其ノ理想ノ實現ニ協力スルト共ニ同政府ヲシテ滿洲國ヲ承認セシメ及滿洲國ヲシテ同政府ヲ承認セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ洵ニ機宜ヲ得タルノ措置ナリト謂フベシ但ダ本取極ノ實施ニ當リテハ政府ハ常ニ之ガ成果ヲ收ムルニ萬遺憾ナキヲ期スルト共ニ其ノ基本精神ニ鑑ミ中華民國民心ノ把握ニ付最善ノ努力ヲ各マガザランコト本官等ノ衷心希望シテ已マザル所ナリ仍テ審査委員會ニ於テハ本案ハ孰レモ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベ

キ旨右希望事項ト共ニ全會一致ヲ以テ議決シ
タリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十五年十一月二十二日

審査委員長

樞密院副議長男爵鈴木貫太郎

審査委員

樞密顧問官伯爵金子堅太郎(男爵)

樞密顧問官 河合 操

樞密顧問官子爵石井菊次郎

樞密顧問官 有馬 良橘

樞密顧問官 窪田静太郎

樞密顧問官 石塚 英藏

樞密顧問官 清水 澄

樞密顧問官 南 弘

樞密顧問官 田中 隆三(男爵)

樞密顧問官男爵奈良 武次

樞密顧問官 荒木寅三郎

樞密顧問官男爵松井慶四郎

樞密顧問官 菅原 通敬

樞密顧問官	松浦鎮次郎
樞密顧問官	潮 惠之輔
樞密顧問官	林 頼三郎
樞密顧問官	深井 英五
樞密顧問官	二上 兵治
樞密顧問官	真野 文二
樞密顧問官	大島 健一
樞密顧問官	小幡 酉吉
樞密顧問官	竹越與三郎
樞密顧問官	三土 忠造 <small>(義経)</small>

樞密院議長原 嘉道殿

昭和十五年十一月

日立寮

書記官長

主筆

書記官



書記官

其下

奏任文官特別任用令中改正ノ件
審査報告

(別紙、通)